日刊 動労千葉
82.3.15
No. 992
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二－八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

いざ3.28へ！

画期的な大成功をかちとった3.6労仂者集会の意義を、更に全国・全産別に押し拡げよう！

全組合員の皆さん、全国の闘う仲間の皆さん。3.6全国労仂者集会は、習志野文化ホールを埋め尽す一、九三〇名の大結集で大成功をかちとった。われわれは、この3.6集会がかちとった意義についてしっかりと確認し、全国の転場・地域に押し拡げようではないか。そして、この3.6集会を新たな出発点として、3.28三里塚に総決起し、日帝・支配階級の戦争と反動政策に対決する新たな労仂運動の潮流をつくりだそうではないか。3.28三里塚へのかつてない大動員を実現するため全転場から総決起しよう。

全国から闘う労仂者が大結集した3.6集会

画期的成功をかちとった3.6集会の**第一の意義は、**雪崩うつ労仂運動の右翼化・産報化に抗し、闘う労仂者が全国、全産別から大結集し意志一致をかちとったことである。

日帝・支配階級の軍事大国化・憲法改悪・戦争と反動攻撃の激化の中で、労仂運動は、雪崩の如く右翼化・産業報国会化の道を急ピッチで進んでいる。特に、日本労仂運動の最後の橋頭堡である国鉄労仂運動に対する未曽有の破壊攻撃が激化している今日、国労・動労中央は、総屈服・総退却路線を組合員に強制し、闘いを圧殺し、文字通り、国鉄労仂運動を産報化・愛国労仂運動へと変質させようとしている。こうした厳しい情勢の下で既成労仂運動の右翼化に抗し、闘う方針と連帯を、求めて全国・全産別から多くの労仂者が大結集し、3.6集会を圧倒的に成功させたのである。三里塚労農連帯の旗を掲げ、81.3ストライキを闘い抜き、報復大量不当処分攻撃と動労「本部」革マル反動分子による権力へのタレコミ告訴などの組織破壊攻撃をはねのけて闘い続けるわが動労千葉に対する熱烈な共感と連帯は、確実に全国・全産別の職場・地域に深く広く拡大しているのである。

三里塚労農連帯を一層うち固めた3.6集会

3.6集会のかちとった**第二の意義は、**「一切の話し合い拒否・農地死守」の基本路線を堅持し、二期阻止へ大きく前進している三里塚反対同盟との労農連帯のきずなを一層強固に打ち固めたことである。昨年末、公然となった政府・空港公団による三里塚反対同盟に対する「話し合い」攻撃は、17年間にわたる実力闘争＝「一切の話し合い拒否・農地死守」の基本路線をなげすて反対同盟を丸ごと「条件派」へと変質させ、解体し、二期工事着工にふみきるという攻撃そのものであった。しかし、不屈の反対同盟は、同盟の基本路線を踏みにじった幹部・石橋、内田両氏を自己批判させ解任し、この攻撃をもののみごとに粉砕し、基本路線を堅持し、二期阻止へ大きく前進をかちとっている。われわれは、3.6集会に於て、この反対同盟の苦闘をわがものとして一層強固な労農連帯をもって二期阻止・三里塚闘争勝利へ共に前進することを確認したのである。

闘う労仂者の進むべき道をさし示した3.6集会

3.6集会のかちとった**第三の意義**は、労仂運動の原点をとりもどし、原則を守ることこそ闘う労仂者の進むべき道であることをさし示し、3.28三里塚総決起をかちとり、三里塚闘争勝利こそ日帝支配階級の戦争と反動攻勢を打ち破る道であることをはっきりとさせた事である。

①、戦争と反動攻撃が激化している今日、労仂者は、闘わなければ生きられない時代が到来していること。

②、労仂運動の右翼化と産報化、さらに、動労「本部」革マル反動分子が「仂こう」運動で国鉄を守れ」とさけぶ中で、われわれは今こそ全力を傾けて労仂運動の原点をとりもどし、原則を守る闘いを全国・全産別の中に拡げ、構築しなければならない。

③、その闘いの基軸は、国鉄と三里塚である。

④、3.28三里塚に総決起し、三里塚と反合を結合した労仂運動をつくり出すこと。

⑤、労仂運動の原点を完全になげすて、当局の尖兵＝合理化率先協力＝愛国・企業防衛主義の産報化運動の尖兵＝動労「本部」革マル反動分子追放・一掃、動労大改革は、闘う全労仂者の共通の任務であること。

このように、3.6全国労仂者集会がかちとった画期的な意義を一人一人のものとし、全国に押し拡げ、闘う労仂運動の潮流を一層拡大、強化しようではないか。

3.6集会の偉大な成果を踏み固め、3.28三里塚に巨万の決起を！いざ3.28へ！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！